

名誉会員 大泉 充 郎 先生を悼む

野 口 正 一†

本学会元副会長大泉充郎先生には、平成3年2月22日にお亡くなりになりました。享年77歳、間もなく78歳の誕生日をお迎えになるときでした。謹んで心から哀悼の意をささげます。

大泉先生は、本学会が創立されて間もない、昭和36年3月に入会され、昭和45～46年度の副会長として本学会の発展のために尽力され、特に昭和45年には、関西について東北に支部を設立され、初代支部長として地方における学会の発展に尽されてきました。このお陰で以後地方に本学会の支部が大変に設立し易くなったと聞いております。

大泉先生は東北帝国大学を卒業後、安立電気に入社され、昭和26年より東北大学にお移りになりました。以後先生には音声工学・通信工学及び情報工学の研究に従事され、特にコンピュータを中心とする情報工学の研究では、その評

価が我が国で未だ定まらぬ時からいち早く開始され、先生の当時の研究の構想は今日に至るも目を見張る思いのする先見性に満ちたものであります。特に昭和30年初期に推進されたコンピュータプロジェクトSENAC-1の建設は、その後の我が国のコンピュータの発展に多くのインパクトを与えたものと言えましょう。先生には情報科学・工学の分野のパイオニアとして、数多くの業績があげられると共に多くの研究者・技術者を育成され、我が国のこの分野の最も重要なリーダーとして

尽されたことは、皆さまもよくご存知のとおりであります。また先生は、日本学術会議会員として活躍されたときは、日本における学術のより一層の発展を目的として、大学に大型計算機を設置するプロジェクトを、最も重要なメンバとして推進されました。先生の努力によって我が国の七つの大学に大型計算機センターが設置されたといっ

ても過言ではありません。大型計算機センターがその後、我が国の学術の発展に与えた寄与の大きさを思うとき、改めて先生の洞察力と卓見の深さに、たゞたゞ頭が下がるばかりであります。

さらに先生には、コンピュータネットワークの先駆的な研究を推進され、昭和48年には東北大学とハワイ大学の大型コンピュータとの接続に成功されるなど、全世界のコンピュータネットワーク実現の可能性を与える研究として当時多

くの注目を集めました。先生はこのように情報科学・工学の分野で華々しい活躍をされたわけですが、他の分野、例えば音声工学の分野で、音声の分析、合成を始めとする日本のパイオニアとしての数多くの業績がございます。しかし、本学会とは少し専門が違いますので、名をあげるにとどめておきます。

77歳になられた先生には、今後まだまだやることが沢山おありだったことと思いますが誠に残念です。

先生のご冥福をお祈りいたします。



御 略 歴

大正 2 年 3 月 12 日	仙台市生れ
昭和 10 年 3 月	東北帝国大学工学部電気工学科卒業
昭和 10 年 4 月	安立電気株式会社入社
24 年 10 月	安立電気株式会社技師長
26 年 11 月	同社退社
26 年 12 月	東北大学助教授 工学部
28 年 1 月	” 教授 電気通信研究所
44 年 6 月 }	” 大型計算機センター・センター長併任
46 年 5 月 }	
47 年 5 月	” 教授 応用情報学研究センター
47 年 10 月	” 応用情報学研究センター・センター長併任
49 年 10 月	” ” ” 再任
51 年 3 月	” 定年退官
51 年 4 月	電気通信大学教授, 東北大学名誉教授
54 年 4 月	千葉工業大学教授
58 年 3 月	” 退職
58 年 4 月	” 非常勤講師
平成 3 年 2 月	逝去
昭和 47 年 1 月	日本学術会議第 9 期会員
50 年 1 月	” 第 10 期会員
53 年 1 月	” 第 11 期会員
45 年 5 月～47 年 5 月	情報処理学会副会長
55 年 5 月	” 名誉会員
受 賞 昭和 18 年 6 月	毎日通信賞受賞 (二重饋還増幅器の研究)
49 年 10 月	通商産業大臣賞受賞
50 年 11 月	石川賞受賞 (只見・阿賀野川水系発電所群を含む東北 地区水火系統の ELD システムの開発)
59 年 5 月	第 7 回日本音響学会功績賞受賞
61 年 3 月	勲三等旭日中綬章受賞